

## I. 研究主題

# 伝え合う力を高める授業の創造 ～思考力や想像力を養う表現活動の工夫を通して～

## II. 研究目的

### 1. 主題設定の理由

#### (1) 研究の経過

#### 第25期（平成26～27年度）

#### 「総合的な国語の力を育成する、多彩な学習構成の創造」 ～文学的文章を支える「表現のしくみ」に着目して～

- ①従前の部会研究で積み上げてきた指導観を継承しつつ、「単元を貫いた言語活動の設定」等の新しい指導観を取り入れる試みとして、文学的文章教材の指導における3つの「学習構成モデル」に基づく授業展開、「表現のしくみ」に着目した年間の指導計画作成を柱とした実践の交流。
- ②1年間を見通し、いつ、何を学ぶかを、明確に意識した指導計画および授業作りに取り組み、目の前の子どもたちの実態に応じた「総合的な国語の力」の育成、伸長を図った。

#### 第26期（平成28～29年度）

#### 「多様な手立てによる『総合的な国語の力』の育成」 ～説明的文章教材における「表現のスキル」の習得と活用をめざして～

- ①第25期の「文学的文章教材」の両翼の一方を担う「説明的文章教材」を扱い、「つきたい力」を念頭にした「手立て」を工夫する研究を進めた。
- ②系統立てた指導（『表現のスキル』系統表）、実態の把握、つきたい力とそれに応じた工夫が必要かつ重要であるという認識を部会員で共有することができた。

#### 第27期 研究の成 果と課題

#### 伝え合う 力とは

(2) 主題「伝え合う力を高める授業の想像」を目指すために

第27期は、部会員の要望と第25・26期の研究成果、そして、新「学習指導要領」で目指す国語科の目標を繋ぐ研究としてスタートした。新「学習指導要領」における国語科の目標は、次の3つである。

- ①日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- ②日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- ③言葉のもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の態度を養う。

平成30年度、文学的文章教材を切り口に、各サークルで多様な表現活動の実践に取り組んでいただいた。研究成果として、「多様な手立て・表現活動を知ることができた」などが挙げられた。一方、第27期当初にも懸念された「表現活動ありきの活動になりがちではないか」「何のための表現活動なのか」という課題も出た。

自分の考えを伝えるため、また、相手の考えを知る・理解するためには、言語の正しい使い方を知ることが重要である。平成31年度の研究内容は、「伝え合う力=互いの考えや立場を尊重（=自他のよさに気付く）し、言葉を通して正確に理解したり表

現したりすること」を高める授業を目指すということを再度確認し、研究を進めていく。

また、伝え合う力を高めるためにも、児童がその教材で学習した（身に付けた）内容を、話したり書いたりする（＝表現活動）ことが重要であると考える。児童が互いの思いや考えを理解し、それらを広げるための効果的な表現方法を研究していきたい。

(3)「思考力・想像力を高める表現活動」を新「学習指導要領」とつなげて

新「学習指導要領」には、「思考力・想像力などは、認識力や判断力などと密接に関わりながら、新たな発想や思考を創造する原動力となる」「日常生活における人と人との関わりの中で、思いや考えを伝え合う力を高め、思考力・想像力を養うこと」とある。国語部会としては、『教材文を理解した後、「考えの形成」をし、「共有」するために表現活動を行う。その活動を通して児童の思考力・想像力を高めることができるのではないか』と考える。

新「学習指導要領」における「考えの形成」・「共有」は以下の通りである。

	考えの形成	共有
低学年	感想をもつこと	感じたことや分かったことを共有すること
中学年	感想や考えをもつこと	一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと
高学年	自分の考えをまとめること	自分の考えを広げること

これらも基にして、今年度の研究を深めたい。

(4) 今年度の表現活動は

第 27 期の 1 年次目は、文学的文章教材で身に付けた学習内容をどのように表現していくかという表現活動について実践を重ねた。言い換えると、第 25・26 期の研究が知識・技能のインプット（習得）であり、今期は知識・技能のアウトプット（活用）だと考えた。各市町村においては、「お気に入り段落の紹介」「ポップカード」「図書推薦会」など、様々な表現活動に取り組んでいただき、文学的文章教材での表現活動を石狩管内の国語部会で共有することができた。

また、平成 30 年度の実技理論研で、筑波大学付属小学校の青木先生による『子どもの表現活動に生きる読解の授業作り』という講演の中で、表現活動は 3 種類あることを教えていただいた。3 種類とは以下の通りである。

- ①読むために表現する…文章を読解するために行われる表現活動
- ②読んだことを表現する…文章を読んで、理解したことを表現する活動
- ③読んだことを生かして表現する…創作などの発展的な表現活動

今年度、国語部会として目指す表現活動は、知識・技能のアウトプットを目指しているため、②か③が当てはまる。昨年度と同様、文章を読解する力を身に付け、学習したことを表現するという表現活動を目指したい。説明的文章であれば、「②感想、批評・要旨をまとめる」「③学習した文章構造（尾括型・頭括型・双括型など）を使って新たな文章を創作する」など、表現活動を楽しませることで、教材文の構造の良さ・作者の表現の工夫にも触れさせていきたい。

## 2. 目指す子ども像

- (1) 言葉を通じて相手と関わることで、自他のよさに気付くことができる子ども
- (2) 互いの立場や考えを尊重し、言語を通して適切に表現できる子ども

## 3. 研究仮説

言語を手掛かりとした論理的に思考する力や豊かに想像する力を養う表現活動を工夫することにより、児童に伝え合う力を育てることができる。

## III. 研究内容

### 1. 研究領域

「読むこと」領域の「説明的文章教材」における「表現活動」場面

### 2. 研究の柱

- (1) 「思考力、想像力」を高めるための表現活動の実践…「表現のスキル」系統表の活用を通して
- (2) 6年間の指導事項の系統性を念頭においた、身につけさせたい力を明確にした学習指導

### 3. 教育課程研究

昨年度作成した基底編に基づいて、各学年の教育課程を編成する（予定）。

## IV. 研究方法

1. 平成30・31年度の2ヵ年計画で行う。今年度は研究2年次目となる。
2. 中心サークルを設け、石教研第二次研究協議会において授業提言を行う。ただし、各市町村および石教研第二次研究協議会での提言を行う学年と教材については、討議の場での共通理解を図るため、原則次の通りとする。なお、授業を行う学年の指定は行わない。

学年	教材名	予想される表現活動
1年生	すずめの 暮らし だれが、たべたのでしょうか はたらく じどう車	知らせたいことを書く など 楽しかったことを書く など 乗り物のつくりを書く など
2年生	すみれと あり さけが大きくなるまで	手紙を書いて、わかったことを伝える など 写真を使って、さけの成長を説明する など
3年生	めだか くらしと絵文字	自分が知りたい生き物の特徴を比べて書く など 絵文字の説明文を、学習した構造を使って書く など
4年生	花を見つける手がかり ウミガメの命をつなぐ	わかったことを説明する など 興味を持ったことを紹介する など
5年生	言葉と事実 世界遺産 白神山地からの提言	学習したことをもとに、新聞記事を書く など 自分の考えを深める など
6年生	森林のはたらきと健康 ぼくの世界、君の世界	推薦文を書く など 感想や意見を書く など

3. 各市町村サークルは、主題の解明を図るために、以下の要領で部会研究を進める。
  - (1) 授業学年の説明的文章教材について、「どの教材でどのような力を身につけさせたいか」また「どのような表現活動がふさわしいか」を、児童の実態を鑑みながら検討し、年間指導計画を作成する。
  - (2) 年間指導計画に沿って、公開授業単元の学習構成を検討する。

(3) 授業公開後、事後研を持ち、提言をまとめる。

4. 実技理論研修会を開催し、今研究に関わる学習および日常の実践に生きる学習の場を設定する。
5. 第26期に作成した『表現のスキル』系統表を改訂し、HPにも掲載・活用してもらう。

## V. 研究体制（組織・運営）

1. 研究中心サークルを、平成31年度（研究2年次目）は江別市とする。
2. 分科会構成は、低・中・高の3ブロックとする。なお、構成人数の関係で、市町村内部会員のブロック移動を認め、共同研究体制を維持するよう努める。分科会は、討議の活性化を図るため、付箋を用いた協議をする。中心サークル・各市町村サークルの提言を主とするが、個人レポート提言も受け付ける。
3. 推進委員研修会（部会役員・各市町村の推進委員）を組織し、研究計画の具体化や石教研第二次研究協議会の運営等について協議する。
4. 定期的に部会報「はまなす」を発行し、研究内容や各種研修会の周知等に努める。
5. 年度当初に「研究ガイド」を発行し、指導案形式と提言形式を提示し、HPにも掲載する。

## VI. 年間計画

時期	研修会名・事業名	内 容
4月	石教研専門部会第一次研究協議会・役員研修会	研究計画、研究体制の確認
	「はまなす」No.1 発行	年間指導計画様式
5月中旬	役員研修会、推進委員研修会①	各市町村提言予定状況の確認
	「はまなす」No.2 発行・研究ガイド発行	各市町村提言予定状況、部会事業計画、サークル便り交流、第二次研究協議会に向けて提言方法提示
7月	推進委員研修会②、役員研修会	第二次研究協議会開催要項検討
8月	実技理論研修会（予定）	
9月上旬	「はまなす」No.3 発行	第二次研究協議会開催要項
10月	第二次研究協議会拡大推進委員研修会	第二次研究協議会開催要項確認
	石教研専門部会第二次研究協議会	授業提言、分科会交流
11月	推進委員研修会③、役員研修会	第二次研究協議会交流、アンケート見解検討、「石狩の教育」原稿検討
	「はまなす」No.4 発行	アンケート集約、見解
	管内詩集『石狩の子』原稿提出締め切り	
12月	役員研修会	次年度研究内容の立案・検討、『石狩の子』編集作業
1月	推進委員研修会④、役員研修会	次年度研究計画案内容検討
	「はまなす」No.5 発行	次年度研究計画案提示
2月	推進委員研修会⑤、役員研修会 管内詩集『石狩の子』発行	次年度研究計画案意見集約、検討・修正
3月	「はまなす」No.6 発行	次年度研究計画決定版・決算・教育課程委員会検討内容

教育課程委員会、『石狩の子』編集委員会については、随時開催する。

（文責 山本 麻千子）